

みんなで考えよう！ 書写指導④（毛筆編）

毛筆用具の後片づけ

「ごみがでない書写指導」のために

ほこし 反故紙をとっておく

- ・書き損じた紙、運筆練習で使った紙など（「反故紙」といいます）を丸めたりせず、筆や硯の後片づけに有効に使う方法を教えることで、半紙を最後まで大切に使う習慣を身につけることができます。

反故紙も紙ばさみにはさんでおく。



筆の洗い方(反故紙とペットボトルを活用して)



- 1 筆の墨は、あらかじめ反故紙でとっておく。向こうから手前に筆を動かし、筆は決して逆立てないように気をつける。



- 2 ペットボトルの中の水で、筆を軽く振りながら洗う。



- 3 ペットボトルの口の部分で水気を切る。



- 4 反故紙でさらに水気を切る。

- 5 汚れたペットボトルの水は流しの排水口のところに静かに捨てる。

その他の注意点

- ・ペットボトルは児童数分まとめて、箱やかご等に入れておくとよいです。学習前に係の児童がいつも水を入れておくとすぐに使えます。
- ・筆の墨を取ったり、水気を吸い取ったりした反故紙は、最後に硯を拭く時にも活用するので丸めないようにします。
- ・硯を拭くところまで使い、小さく折り畳まれた紙だけは、教室で捨てるでもよいことにします。

硯に残った墨汁

- ・硯に残った墨汁は、墨汁の容器に戻さないようにします。戻すと墨汁が腐敗しやすくなってしまいます。バケツに水を少し入れて、そこに捨てるようにします。墨汁が捨てられたバケツは、係の児童が静かに排水口に捨てて洗っておきます。書写用のバケツを用意しておくのもよいでしょう。
- ・バケツの中に新聞紙を数枚敷いておくと、新聞紙ごと捨てることができ、バケツが汚れません。

墨汁の捨て方



- 1 硯の下にぞうきを添えて、バケツの近くに持っていく。



- 2 余った墨汁を硯の角から静かにバケツに捨てる。



- 3 墨汁を垂らさないように、硯の角をぞうきんで静かに押さえる。

硯の後片づけ



- 1 反故紙を八つ折くらいに折り畳む。



- 2 反故紙で硯を拭く。



- 3 汚れた部分を中に折り返ししながら反故紙で何度か拭く。

紙ばさみの使い方

- ・紙ばさみには、授業で教材文字を書いた半紙や練習用紙、反故紙などを入れておきます。新聞紙の間に一枚ずつ入れます。マチを作っておくと、あまり開かなくても入れやすく、席に座った状態で入れることができます。

使用前の半紙も何枚か入れておくと、半紙を出す手間が省け、しわにもならず気持ちよく書ける。

